

東北支部 都市計画セミナー「山形市街地巡検」

東北支部の秋のイベントとして、都市計画セミナー「山形市街地巡検」が10月26日(土) 午後開催されました。台風27号の影響が心配されたのですが、集合時間頃から雨が上がり、快適に巡ることができました。30名(うち学生16名)という多数の参加者を得ました。

東北芸術工科大学の小林敬一先生にメイン講師をお願いし、支部長や山形大学の佐藤慎也先生など多数の講師を加えた豪華な見学会となりました。その趣旨は次のように小林先生に書いて頂きました(一部編集)。

「ここ20年間を中心に山形市中心市街地の変容を辿り、都市計画関連諸施策の果たした役割を省み、将来への課題を考える。

山形市の中心市街地は城下町の基盤の上に形成されているが、近代化の過程でその歴史性を引き継ぎながら、地方中核都市の中心としていかに新たな都市文化を担う場とすることができるか問われ、様々な計画的施策が加えられてきた。…(中略)…しかし、交通条件(アクセス)の抜本的な改善はならないまま、その商業機能の退潮は続いて今日に至っている。また、堰が流れ、路地が多く、蔵などの歴史的な建築物が多数残っていたが、明治に大火を経験したこともあり、まとまった町並みとして保存されることなく今日に至っている。分散的に残る歴史的景観要素など資源の掘り起こしに努めたのが中心市街地景観ガイドプラン(1996年)であった。地元有志でも会を組織し、歴史的資源の掘り起こしがなされてきた。…(中略)…一方で、中心市街地の将来像を考える上で、近年高層マンションが立地する傾向にあることを念頭に置かなければいけない。このような今日的な課題について、巡検を通じて認識を新たにしたい。」

主な見学先は、蔵オビハチ(蔵プロジェクト)／紅の蔵／旧西村写真館／鍵型跡／山形まなび館(第一小学校旧校舎)／七日町御殿堰／文翔館の眺望景とマンション問題解説／香味庵まるはち と挙げることができます。

見学先リストを見てわかるとおり、大火を経験したといえども、山形市の中心部には古い魅力的なものがたくさんあります。マンションの立地など暮らしやすい街として再生していく動きを目の当たりにするとともに、歴史的な落ち着き感から人を引きつける街に変容する可能性を感じることができました。筆者は、特に御殿堰での講師をお願いした七日町御殿堰開発株式会社の結城康三氏の言葉、「新しいものを作ることばかりが都市計画ではない、古いものを大事にし、さらにそれをいかにして生かすか。そこに工夫することこそ、街の再生につながる大事な都市計画と信じています」という言葉に感銘を受けました。実際、御殿堰付近はとてよい雰囲気が醸成されているので、山形にお越し際には是非、見て頂きたいと思います。

最後の見学地、香味庵まるはちでは小林先生によって山形市の都市計画の概説が講義され、さらに参加者によるワークショップ形式でのふりかえりがおこなわれ、参加して学んだことを心に刻みました。こうした、充実した心に残る見学会となりました。

(文責:古藤浩/東北芸術工科大学 准教授)



紅の蔵にて



御殿堰にて